

# 平成 16 年 度 高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入学生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（受検者数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

## < 検索用キーワード >

英語 中学校 高等学校 中高連携 学力調査 オリエンテーションテスト 正答率 誤答分析

## 研 究 会 委 員

愛知県立明和高等学校教諭	久住 智之
愛知県立惟信高等学校教諭	立松健次郎
愛知県立鳴海高等学校教諭	梅村 守
愛知県立春日井南高等学校教諭	深谷 泰司
愛知県立犬山高等学校教諭	後藤 幸子
愛知県立知立高等学校教諭	神谷 肇
愛知県立新城東高等学校教諭	井上 正明
愛知県総合教育センター研究指導主事	都築 数雄（主務者）

## 目 次

1 調査の趣旨	-----	( 1 )
2 調査の実施及び処理	-----	( 1 )
3 調査結果の概要	-----	( 2 )
4 分析結果の概要	-----	( 2 )
5 統計資料	-----	( 3 )
6 問題別の考察及び指導上の留意点	-----	( 5 )

## 1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和29年以来継続して実施し、平成16年度で51回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
- (2) 高等学校第1学年における指導上の参考資料

## 2 調査の実施及び処理

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が当たり、調査問題の作成、調査結果の統計処理、考察及び報告書の作成は、愛知県総合教育センターに研究会を置いて行った。

### (1) 実施の時期

平成16年3月下旬から4月上旬までの間に、各参加校において実施した。

### (2) 実施状況

課程	年度 科	平成16年度		平成15年度		平成14年度		平成13年度	
		校数	受検者数	校数	受検者数	校数	受検者数	校数	受検者数
全 日 制	普通科	119	30,430	117	30,849	118	31,408	113	30,891
	商業科系	8	720	10	1,046	10	1,101	7	782
	家政科系	10	639	11	676	11	628	11	678
	英語科系	3	89	3	100	3	93		
	工業科	2	351	2	354	2	356	2	355
	その他	12	1,004	13	1,019	10	762	7	620
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
計		154	33,233	156	34,044	154	34,348	140	33,326

(注1) 複数学科・コースを設置する学校については学科・コースごとに1校として扱った。

(注2) 「その他」は、盲・聾・養護学校、農業科、林業科、園芸科、衛生看護科等である。

### (3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的としている。このためには、まず、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを言語の領域ごとに調査することが必要である。

このことを考慮して、問題作成に当たっては次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍、及び NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1 三省堂）の範囲を逸脱しないものとする。

### (4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点      イ 得点分布表      ウ 小問ごとの正答者数（各校調査人員の10%を抽出）

### 3 調査結果の概要

[表1]は、調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点・標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布，平均点及び標準偏差（SD）

[表1]

得点	-以上	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体		3,301	4,853	5,265	5,131	4,445	3,699	3,097	2,399	959	84	33,233	61.1
	%	9.9	14.6	15.8	15.4	13.4	11.1	9.3	7.2	2.9	0.3	S D	22.2
全 日 制	普通科	3,258	4,771	5,061	4,799	4,002	3,123	2,548	1,957	836	75	30,430	62.5
	%	10.7	15.7	16.6	15.8	13.2	10.3	8.4	6.4	2.7	0.2	S D	22.0
	商業科系	2	9	35	81	119	184	165	103	22	0	720	44.4
	%	0.3	1.3	4.9	11.3	16.5	25.6	22.9	14.3	3.1	0.0	S D	15.5
	家政科系	0	16	31	67	87	151	128	115	40	4	639	42.7
	%	0.0	2.5	4.9	10.5	13.6	23.6	20.0	18.0	6.3	0.6	S D	17.2
	英語科系	29	18	14	13	7	5	2	1	0	0	89	76.9
	%	32.6	20.2	15.7	14.6	7.9	5.6	2.2	1.1	0.0	0.0	S D	17.5
工業科	4	13	41	60	79	73	48	28	5	0	351	52.3	
%	1.1	3.7	11.7	17.1	22.5	20.8	13.7	8.0	1.4	0.0	S D	16.8	
その他	8	26	83	111	151	163	206	195	56	5	1004	44.3	
%	0.8	2.6	8.3	11.1	15.0	16.2	20.5	19.4	5.6	0.5	S D	18.7	

(注) SDは標準偏差を示す。

### 4 分析結果の概要（詳細分析は、62ページから78ページに掲載）

ここでは、平成16年度英語学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を各項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 62.0% 【2】語彙問題 正答率 47.9%）

ア 単語の発音について、子音と比べて母音に関する問題の正答率が低い。

イ 小問(4)の kitchen の正答率に見られるように、単語の発音は覚えていてもその綴り字が正確に定着していない傾向が強まっている。一方で、小問(10) What's wrong? の wrong のように、会話表現中の単語の綴り字は、正答率が高くなっている。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 70.1% 【4】文法・表現問題 正答率 58.3%）

ア 態に関する問題の正答率が低い。これは主語と動詞を中心とする文構造が十分に理解されていないためであると考えられる。

イ 助動詞，比較，原形不定詞などの基本的文法事項の理解が不十分である。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 82.6%）

一般的によく理解され、正答率も高いが、動詞の時制に対する理解が不十分である。

(4) 表現力（【6】並べ換え問題・英作文 正答率 48.7%）

ア 日本語の表現・語順に影響されやすく、適切な主語・動詞を選択できない。

イ 動詞 want，最上級などの基礎的事項を正しく用いて表現することができない。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 58.0%）

ア 文章の前後関係から内容を推測する力が不足している。

イ 大意把握ができていても、一文一文を正確に理解することができない。

(6) 聞き取りの力（【8】リスニングテスト 正答率 67.6%）

ア 内容的には理解しているが、質問文（疑問文）に応じた答え方ができない。

イ 会話の流れを理解した上で、情報を整理して聞き取ることができない。

5 統計資料

(1) 受検者数，平均点及び標準偏差（SD）の推移

[表2]は，受検者数，平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。昨年度と比較して，調査校全体で平均点は0.4点の上昇，標準偏差は2.2ポイントの減少となっている。学科別の数値では，商業科系の平均点の上昇（5.4点）が特徴的であるが，これは，母集団の数の変化が影響していると思われる。（昨年度1,046名より326名の減少）

受検者数，平均点及び標準偏差（SD）（過去との比較） [表2]

年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
受検者数	37,667	36,887	35,577	36,535	33,497	33,326	34,348	34,044	33,233
全体	61.7	63.5	65.3	55.5	61.7	56.6	58.7	60.7	61.1
S D	21.5	21.5	21.2	20.2	22.4	22.8	23.6	24.4	22.2
普通科	63.5	65.2	66.8	56.8	63.0	57.8	60.3	62.5	62.5
S D	20.7	20.9	20.7	19.9	22.1	22.7	23.3	24.1	22.0
商業科系	42.4	45.2	46.7	39.8	43.3	37.2	37.9	39.0	44.4
S D	16.5	15.8	15.8	14.8	16.6	16.0	17.3	17.4	15.5
家政科系	37.6	40.5	45.1	40.1	44.3	42.2	41.6	42.4	42.7
S D	19.5	18.2	19.6	17.0	17.5	17.7	19.5	19.9	17.2
英語科系	72.7	81.5	80.3	75.9	84.0		77.1	74.3	76.9
S D	14.8	12.7	10.7	13.0	11.2		19.2	22.4	17.5
工業科	47.0	49.3	56.6	47.6		47.9	48.2	52.6	52.3
S D	24.8	22.9	23.1	20.4		17.9	17.6	20.0	16.8
その他	44.2	43.7	45.7	36.5	44.3	39.2	42.2	44.0	44.3
S D	22.7	21.3	20.6	16.0	19.4	19.0	20.0	21.1	18.7

(注) 平成13年度「英語科系」及び平成12年度「工業科」は，「その他」に含まれる。

(2) 学校平均点の分布状況

[表3]は学校平均点の分布状況をまとめたものである。今年度も同一学科の学校間で相当の差が見られる。特に，普通科における学校平均点は，今年度の最高と最低の差は74.3点（最高93.9点から最低19.6点）で，昨年度（76.1点）より差は小さくなってはいるが，依然として相当の差が見られる。（[表4]参照）

学校平均点の分布状況 [表3]

学科	得点																校数	
	~90	~85	~80	~75	~70	~65	~60	~55	~50	~45	~40	~35	~30	~25	~20	~15		~0
全体	4	7	5	9	17	13	10	12	17	11	18	5	9	5	7	1		150
普通科	3	7	5	9	16	10	8	9	11	7	14	3	6	3	6	1		118
商業科系							1		1	2	3		1					8
家政科系						1		1	3	2	1			2				10
英語科系	1				1				1									3
工業科								1	1									2
その他						2	1	1				2	2		1			9

(注) 上記統計には，受検者数10名以下の学校（学科，コース）は含めていない。

普通科における学校平均点較差（最高点 - 最低点）の推移 [表4]

年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
得点差	72.9	71.5	74.6	71.4	75.0	72.5	74.4	76.1	74.3

(3) 設問別正答率(%)の過去との比較

[表5]は抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度に差があるため、単純な比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【5】口語表現，【6】表現力の正答率が比較的高く，設問【2】語彙，【7】長文読解の正答率が低いことが分かる。

設問別正答率(%)の過去との比較

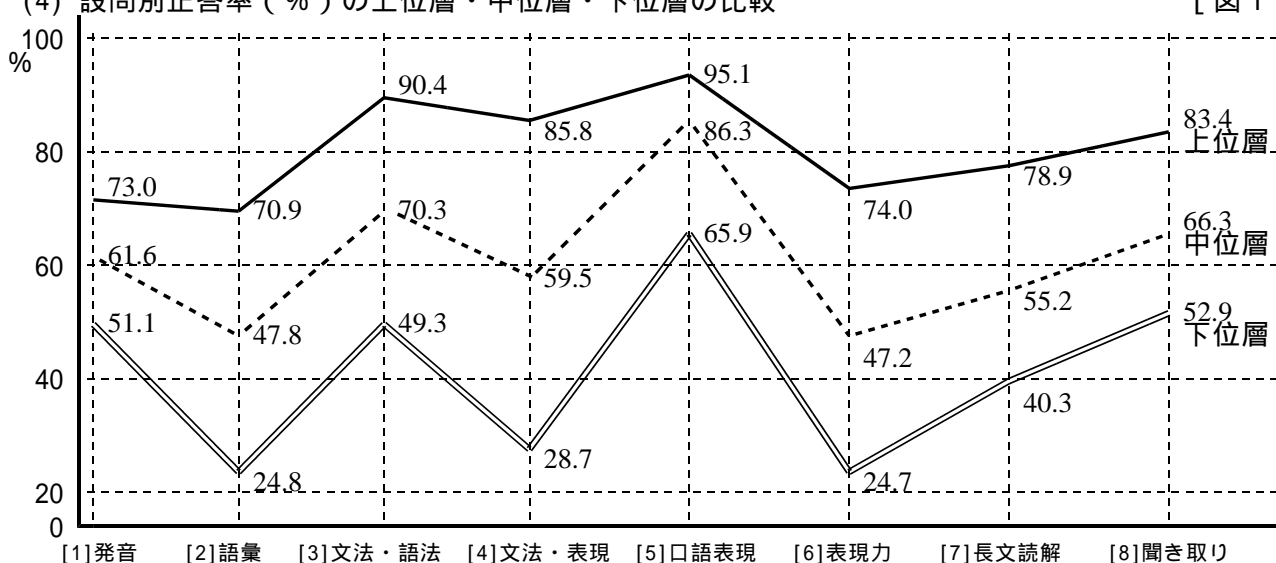
[表5]

年 度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
抽出人数	3,847	3,753	3,690	3,702	3,426	3,374	3,686	3,515	3,407
全 体	61.7	63.5	65.3	55.5	61.7	56.6	58.7	60.7	61.1
【1】発 音	65.6	80.4	55.6	56.1	54.8	63.6	45.2	48.0	62.0
【2】語 彙	61.0	61.6	62.3	49.5	55.9	50.5	59.3	45.0	47.9
【3】文法・語法	70.1	71.7	83.8	43.4	76.0	72.6	65.0	70.5	70.1
【4】文法・表現	77.3	59.5	51.0	49.4	51.7	52.5	60.6	54.3	58.3
【5】口語表現	67.3	77.5	88.1	84.3	75.5	64.5	61.1	77.1	82.6
【6】表 現 力	38.0	45.0	47.7	41.9	41.8	51.9	45.0	57.7	48.7
【7】長文読解	61.6	59.8	68.1	54.1	67.8	57.4	60.3	69.9	58.0
【8】聞き取り	53.1	64.1	74.9	72.7	67.8	52.4	64.4	58.4	67.6

(注)平成16年度の抽出人数は，153校3,407人であるが，設問【8】のみ152校3,383名である。

(4) 設問別正答率(%)の上位層・中位層・下位層の比較

[図1]



[図1]は，抽出答案152校3,383名中の学校平均点上位34校に所属する1,079名(上位層)，学校平均点中位60校に所属する1,259名(中位層)及び学校平均点下位58校に所属する1,045名(下位層)の設問別得点率をグラフにしたものである。各層ともに設問別正答率の傾向は類似しているが，設問【2】語彙，【4】文法・表現，【6】表現力(すべて記述式)において各層の差が大きくなっている。また，設問【5】口語表現において，上位・中位と下位との差が大きくなっている点と，設問【6】表現力及び【7】長文読解において上位と中位・下位との差が大きくなっている点が注目される。また，上位層の設問【1】発音，【2】語彙の正答率が全設問中で低くなっていることは意外な結果である。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音に関する問題

問題のねらい：母音及び子音の発音を正しく識別することができるか。					
【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が、与えられた語の下線部の発音と同じものを一つずつ選び、記号で答えなさい。					
(1)	weather	[ア break	イ breakfast	ウ reason	エ teacher]
(2)	both	[ア hot	イ lost	ウ nothing	エ open]
(3)	looked	[ア changed	イ died	ウ helped	エ stayed]
(4)	another	[ア anything	イ north	ウ thank	エ together]
(5)	bird	[ア hard	イ hear	ウ hurt	エ warm]
配点 10点(各2点)					
正答 (1) イ (2) エ (3) ウ (4) エ (5) ウ					

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科 設問人数	全体 3,407	普通科 3,115	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
(1) weather	57.1	58.7	37.3	50.0	90.0	48.6	26.9
(2) both	51.5	51.9	49.3	46.9	60.0	68.6	38.0
(3) looked	80.2	81.3	68.0	62.5	100.0	80.0	63.9
(4) another	94.7	95.3	96.0	89.1	100.0	97.1	79.6
(5) bird	26.3	27.0	18.7	17.2	50.0	31.4	12.0

本年度は、小問(1)、(2)、(5)を母音に関する問題、(3)、(4)を子音に関する問題とした。本問における調査校の抽出答案全体の正答率は62.0%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、誤答数は調査校の抽出答案全体の正答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) weather [e]	44	ア	[ei]	26	(4) another [ð]	1	ア	[θ]	1
		イ	正答	イ			[θ]		
		ウ	[i:]	ウ			[θ]		
		エ	[i:]	エ			正答		
(2) both [ou]	47	ア	[ɔ]	6	(5) bird [ə:]	59	ア	[ɑ:]	49
		イ	[ɔ:]	39			イ	[iə]	1
		ウ	[ʌ]	2			ウ	正答	
		エ	正答	エ			[ɔ:]	9	
(3) looked [t]	10	ア	[d]	5					
		イ	[d]	2					
		ウ	正答						
		エ	[d]	3					

<考察>

小問(1)は、-ea- のもつ [e] と [ei][i:] の発音の違いを識別させる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は57.1%であった。誤答であるアの break が誤答のうち26例と最も多く、正答である breakfast の break の部分の発音と混同したためと思われる。

小問(2)は -o- の綴り字で [ou] と発音する語を識別させる問題である。この問題における調査校の抽出答案全体の正答率は51.5%であった。誤答は、イ lost が最も多かった。見出し語の both が二重母音 [ou] と発音することが理解されておらず、open も日常生活の中で「オープン」としか意識されていないことが考えられる。

小問(3)は -ed の綴り字の発音を問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は80.2%とよくできていた。

小問(4)は -th の綴り字で [ð] と [θ] の発音を区別する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は94.7%と本問中最も高かった。分析答案による誤答も1例のみであった。

小問(5)は [ə:r] の発音を問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は26.3%と本問中最も低かった。誤答のうち49例が hard であった。見出し語 bird の発音が正しくできないのに加えて発音記号 [ə:r] と [a:] の区別ができていない。

< 指導上の留意点 >

< 問題点 >

小問(1), (2), (5)にみられるように、母音を正しく区別できていない。

< 具体的な指導例 >

発音する時の口の形や呼吸の仕方などに注意を向けさせ、例を示しながら反復練習させる。

(2) 語彙に関する問題

問題のねらい：基本的な語彙が身に付いているか。

【2】 次の(1)～(10)の文中の ( ) 内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) We start to study English in the seventh (g ).
- (2) There are (t ) months in a year.
- (3) I don't want to go out (b ) I am sick.
- (4) Mother is cooking in the (k ).
- (5) The leaves of some trees (t ) red and yellow in the fall.
- (6) A: (W ) bag is this?  
B: It's mine.
- (7) A: May I speak to Mr. Yamada?  
B: I'm sorry he is out. Would you like to (l ) a message?
- (8) A: Excuse me. Could you tell me the way to the post office?  
B: I'm sorry. I'm a (s ) here.
- (9) A: Thank you very much for your help.  
B: You are (w ).
- (10) A: What's (w )? Are you OK?  
B: I have a fever.

配点 10点 (各1点)

正答 (1) grade (2) twelve (3) because (4) kitchen (5) turn  
(6) Whose (7) leave (8) stranger (9) welcome (10) wrong

< 抽出答案における【2】小問別正答率(%) >

学科 設問	全 体 人数	普通科	商業科系	家政科系	英語科系	工業科	その他
	3,407	3,115	75	64	10	35	108
(1)grade	17.3	18.4	2.7	4.7	50.0	8.6	3.7
(2)twelve	50.7	53.2	22.7	21.9	80.0	34.3	16.7
(3)because	56.4	58.7	24.0	32.8	80.0	42.9	26.9
(4)kitchen	32.9	34.7	8.0	6.3	70.0	28.6	11.1
(5)turn	33.1	34.6	17.3	9.4	70.0	28.6	11.1
(6)Whose	67.0	69.7	38.7	34.4	70.0	54.3	32.4
(7)leave	67.3	69.8	45.3	35.9	80.0	45.7	34.3
(8)stranger	10.8	11.6	1.3	1.6	70.0	0.0	0.0
(9)welcome	80.9	82.7	66.7	62.5	90.0	80.0	49.1
(10)wrong	62.6	64.9	37.3	35.9	60.0	51.4	33.3

調査校の抽出答案全体の正答率は47.9%で、昨年度の45.0%とあまり差はなかった。次の表に、誤答数、誤答の中に占める綴り字の間違いによる誤答、その他の間違いと無答の数を示した。

< 分析答案による誤答数と主な誤答例 >

小問	誤答数	綴り字の間違い(数)	その他(数)	無答
(1)grade	92	16: gread(7), glade(5), glead(2)等	38: going(6), go(5), great(4)等	38
(2)twelve	48	9: tweleve(3), twelb(3)等	35: two(12), twenty(3)等	4
(3)because	52	5: becouse(3), becose(2)	43: bed(17), but(9), back(6)等	4
(4)kitchen	73	67: kitchin(11), kichin(10)等	1: kake(1)	5
(5)turn	71	1: tarn(1)	36: take(10), to(7), tall(6)等	34
(6)Whose	29	17: whoes(15), who's(2)	12: who(6), what(5), where(1)	0
(7)leave	24	1: lave(1)	13: left(2), listen(2)等	10
(8)stranger	92	3: strengre(3)	56: stay(7), soon(6), strange(4)等	33
(9)welcome	15	9: welcom(3), wellcome(3)等	2: well(1), wonderful(1)	4
(10)wrong	36	2: wlong(1), wrong(1)	19: worry(3), want(2), was(2)等	15

< 考察 >

小問(1)は grade を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は17.3%と本問中2番目に低かった。誤答92例の中で、文脈に関係のない単語を入れたものが38例、無答が38例あり、英文が理解できていない生徒が多かった。

小問(2)は twelve を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は50.7%であった。空所に数を表す語が入ることは理解したものの、他の数(序数を含む)を入れた誤答が48例のうち35例と、大半を占めている。数という基本的な単語の定着率としては低い。

小問(3)は because を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は56.4%であった。接続詞が空所に入ることが理解されていないことが誤答の大半の原因であると考えられる。誤答の中で最も多いのがbed(17例)であるが、これは sick と bed を結び付けたためだと思われる。

小問(4)は kitchen を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は32.9%であった。誤答73例のうち67例が綴り字の間違いであり、発音は覚えていても綴り字は正確に定着していないようだ。

なお、kitchen を書かせる問題の過年度における出題及び正答率は、次のとおりである。

kitchen の正答率の推移

年 度	出 題 文	正答率
平成16年度	Mother is cooking in the ( <b>kitchen</b> ).	32.9%
平成13年度	Mother is cooking in the ( <b>kitchen</b> ).	48.1%
平成5年度	She is cooking in the ( <b>kitchen</b> ).	55.7%
平成2年度	Mother usually cooks in the ( <b>kitchen</b> ).	53.1%

小問(5)は turn を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は33.1%であった。誤答71例の中で、無関係な単語を入れたものが36例、無答が34例を占めている。このことから、文意は理解できたが、「～になる」という意味で turn を用いることができなかつた生徒が多いと思われる。

小問(6)は Whose を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は67.0%と、本問中3番目に高かった。誤答29例の中で綴り字の間違いが17例、そのうち Whoes と書いたものが15例であった。小問(4)と同様に、文意は理解されているが、綴り字が正確に定着していない。

小問(7)は leave を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は67.3%で、本問中2番目に高かった。この表現は使用場面が電話での会話にほぼ限定されているため、分かりやすかつたのではないか。

小問(8)は stranger を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は10.8%と本問中最も低かつた。誤答92例中、無関係な単語を入れたものと無答を併せて89例となっており、"I'm a stranger here." という表現は定着していないようだ。

小問(9)は welcome を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は80.9%と本問中最も高かつた。この表現は定着していると言える。

小問(10)は wrong を書かせる問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は62.6%であった。平成13年度の同様の問題の正答率は42.6%であった。これと比較すると、この表現については、より定着してきているようだ。

wrong の正答率の推移

年 度	出 題 文	正答率
平成16年度	A: What's ( <b>wrong</b> )? Are you OK?    B: I have a fever	62.6%
平成13年度	A: What's ( <b>wrong</b> )? Are you OK?    B: I feel sick	42.6%

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2), (4), (6)にみられるように、たとえ発音は覚えていても基本的な単語の綴り字が正確に定着していない傾向が強まっている。

小問(3)にみられるように、文の構造を意識して単語を使用する力が不足している。

<具体的な指導例>

新出単語の導入や発音練習の際に、発音が同じ部分に同じ綴り字を用いる単語(例: match / kitchen)と異なる綴り字を用いる単語(例: kitchen / cheap), 同じ綴り字で発音が異なる部分のある単語(例: church / chemical)をグループにして示し、綴り字と発音の関係を意識させる。それらの単語を用いて発音テストや書き取りの小テストなどを行う。また、授業中に積極的に辞書を引かせ、綴り字と発音の関係を確認し、ノートに書き出させる。基本的な単語も綴り字のテスト範囲に取り入れる。

暗唱練習の際に英文の1カ所を空欄にし、そこに入る単語や品詞を予想させる。それぞれの品詞の文中での働きを理解させながら、正解へ導いていく。

(例) Many people live on the ( ). There are more than six billion people ( ) the world.  
They ( ) all different. That makes the world ( ). Some people can't eat certain foods ( ) they are forbidden.

### (3) 文法に関する問題その1

問題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項を正しく理解できているか。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、( )の中から最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

- (1) I have lived in this city (ア at イ for ウ in エ since) ten years.  
 (2) Stars are (ア see イ seeing ウ seen エ to see) at night.  
 (3) The boy (ア stand イ standing ウ stood エ to stand) near the door is Kenji.  
 (4) A: (ア How イ What ウ When エ Where) did you go to school today?  
 B: By bus.  
 (5) A: (ア Could イ May ウ Must エ Would) I go now?  
 B: No, you don't have to go now.

配点 10点(各2点)

正答 (1) イ (2) ウ (3) イ (4) ア (5) ウ

<抽出答案における【3】小問別正答率(%)>

学科 設問 人数	全 体 3,407	普通科 3,115	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
(1)	83.9	85.3	65.3	70.3	100.0	82.9	62.0
(2)	56.3	57.8	42.7	37.5	90.0	28.6	39.8
(3)	81.3	82.9	64.0	67.2	90.0	74.3	56.5
(4)	70.0	72.7	38.7	34.4	90.0	51.4	38.0
(5)	59.0	61.1	32.0	25.0	80.0	60.0	35.2

本問は、機能語の働きと基本的な文法事項が正しく理解されているかどうかを確かめるための問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は70.1%で、平成15年度の70.5%とほぼ同じとなった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ
(1)	11	0	正答	0	11
(2)	41	3	27	正答	11
(3)	16	3	正答	4	9
(4)	20	正答	13	7	0
(5)	37	1	33	正答	3

<考察>

小問(1)は、継続を表す現在完了形で、期間を表す for を選ぶ問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は83.9%で本問中最も高く、誤答も エ since に集中していた。この事項については、学習が十分されていると思われる。

小問(2)は、受動態の文における過去分詞を選ぶ問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は56.3%で本問中最も低かった。誤答の中で最も多かったのは、イ seeing である。これは、主語の Stars と動詞 see の関係を十分理解しないまま選択したと思われる。

小問(3)は、現在分詞の形容詞的用法の問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は 81.3%と高かった。この用法については、よく理解されていると思われる。

小問(4)は、文意に合った疑問詞を選択する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は70.0%であった。誤答の中で最も多かったのは、イ What である。日本語の「何で」をそのまま英語に直してしまって、What を選んだと思われる。

小問(5)は、文意に合った助動詞を選択する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は59.0%と本問中二番目に低かった。誤答の中で最も多かったのは、イ May であった。must と don't have to の関係が理解されておらず、なじみのある may を選んでしまったと思われる。

< 指導上の留意点 >

<p>&lt; 問題点 &gt;</p> <p>小問(2)にみられるように、態が正確にとらえられていない。 小問(5)にみられるように、文意に合った助動詞を選べない。</p>
<p>&lt; 具体的指導例 &gt;</p> <p>主語と動詞の関係や文の構造を十分理解させた上、教科書の英文を使って、態の変換をさせてみる。さらに、ワークブックの演習問題をやらせ、理解度を高める。 助動詞の受け答えを正しくできるように、教科書の英文を使って、音読させ、ペアワークで反復練習をさせる。さらに理解を深めるため、演習問題に取り組みさせる。</p>

(4) 文法に関する問題その2

<p>問題のねらい：基本的な文法事項を正しく運用することができるか。</p>
<p>【4】 次の(1)～(5)のア、イの内容がほぼ同じになるように、( ) 内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。</p> <p>(1) ア Kenji plays baseball well. イ Kenji is a ( ) baseball ( ).</p> <p>(2) ア This lake is not as big as that one. イ This lake is ( ) ( ) that one.</p> <p>(3) ア You must not be late again. イ ( ) ( ) late again.</p> <p>(4) ア I was glad when I heard the news. イ I was glad ( ) ( ) the news.</p> <p>(5) ア Studying Japanese is interesting to Mike. イ ( ) is interesting ( ) Mike to study Japanese.</p>
<p>配点 配点15点(各3点 部分点は与えません。)</p> <p>正答 (1) (good)...(player)      (2) (smaller)(than)      (3) (Don't)(be)      (4) (to)(hear)</p> <p>(5) (It)...(for)</p>

< 抽出答案における【4】小問別正答率(%) >

学科 設問 人数	全 体 3,407	普通科 3,115	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
(1)	71.2	73.8	45.3	37.5	90.0	68.6	31.5
(2)	55.6	58.2	24.0	25.0	90.0	40.0	20.4
(3)	43.9	46.4	21.3	9.4	80.0	22.9	12.0
(4)	49.9	52.5	20.0	20.3	80.0	25.7	17.6
(5)	71.0	73.6	42.7	39.1	90.0	60.0	37.0

本問は、文の書き換えによって、基本的な文法事項の理解に基づいた英語の運用力、表現力を確かめることを目的としている。本年度の調査校の抽出答案全体の正答率は 58.3%である。平成15年度の 54.3%からはやや上昇している。

< 分析答案による誤答数と主な誤答例 >

小問	誤答数	誤答例(誤答数)
(1)	15	best player(5), well player(2), playing well(2), play well(2), 無答(1), その他(3)
(2)	37	bigger than(10), not bigger(8), smoller than(2), than smaller(2), not biger(2), biger than(2), 無答(2), その他(9)
(3)	68	You don't(15), Do not(12), Don't you(10), You haven't(5), Don't go(3), Don't must(2), Don't have(2), 無答(8), その他(11)
(4)	56	to heard(10), I heard(8), made hear(4), because heard(3), to here(2), to heared(2), when heard(2), 無答(8), その他(17)
(5)	22	It to(4), It that(2), Japanese for(2), 無答(3), その他(11)

< 考察 >

小問(1)は、動詞中心の表現を名詞中心の表現に書き換える問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は 71.2%と、本問中で最も高かった。副詞 well を形容詞 good を用いて書き換えることができなかった誤答が多い。

小問(2)は、否定語のある原級比較の文を比較級を用いて表現する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は 55.6%であった。big の比較級を使って答えている誤答が多く、否定語のある原級比較の文の意味が十分理解されていないようである。また、smaller の er がなかったり、than がないなど、比較表現における基本的事項に関する誤答もあった。

小問(3)は、禁止の命令文に書き換える問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は、43.9%と、本問中で最も低い。命令文に書き換えることを思い付かなかったことがうかがえる誤答が多い。また、be が他の動詞になっている誤答も目立ち、禁止の命令文に be を使う表現はあまり定着していないようである。平成 8 年度に、You must not play baseball here. とほぼ同じ意味になるように、( ) ( ) baseball here. の ( ) に適語を入れさせる問題が出題されたが、調査校の抽出答案全体の正答率は 72.5 %とかなり高いものであった。禁止の命令文でも、一般動詞を使ったものとよく理解されているようである。

小問(4)は、when で導かれる節を to 不定詞を使って表現する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は49.9%と、本問中で二番目に低かった。to 不定詞を使わず、節の形で答えようとした誤答が多い。また、to 不定詞は思い付いたが、正しい形になっていなかった誤答も多い。類題を成績が中位層の高校 2, 3 年生に解答させたところ、正答率は50%を下回り、節から不定詞への書き換え

は、高校生にとって難しい問題のようである。

小問(5)は、動名詞が主語の文を形式主語を使って表現する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は71.0%と高く、It is ... for ~ to do の構文は定着しているようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)，(4)にみられるように、否定の原級比較表現や不定詞に動詞の原形を使うなどの基本的文法事項や文構造の理解が不十分である。

小問(3)にみられるように、助動詞と命令文など、文法事項を関連付けて理解できない。

<具体的な指導例>

(1) 教科書の例文を使って、繰り返し音読させ暗唱できるようにする。また、ペアを作り、互いに例文の読み聞かせや暗唱をしあい、正確に覚えられているか確認する。

(2) ゲーム的な要素を取り入れて、重要例文を数多く覚えさせる。例えば、例文を書いたカードをクラスの最前列の生徒に見せ、その例文を暗唱させ、自分のカードにその例文を数回書かせる。そして後ろの生徒にそのカードを見せ、後ろの生徒は同様に暗唱し自分のカードに書く。これを最後列の生徒まで繰り返し、最初に示された例文が正確に覚えられ伝わっていったか確認する。

(1) 文法事項の説明をするときに、一つ一つの文法事項を独立したものと見なさず、それぞれを関連付けながら提示する。

(2) 重要例文を参考にして、英文を作らせる。幅広い表現力を身に付けさせるために、一回だけでなく、他の言い方ができないか考えさせ、幾つかの文を作らせる。

(5) 口語表現に関する問題

問題のねらい：基本的な口語表現が正しく理解されているか。

【5】 次の英文は Tom と Ken の対話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現を下のア～ケから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Tom: Shall we go to a concert together, Ken?

Ken: ( 1 )

Tom: Are you free this Sunday?

Ken: ( 2 ) I'm going shopping with my mother on that day.

Tom ( 3 )

Ken: Yes, I'm free. When and where shall we meet?

Tom: Let's meet at Tokyo Dome at six o'clock.

Ken: Where is it? ( 4 )

Tom: Then, let's meet at your house.

Ken: ( 5 ) You're very kind. I'll see you then.

Tom: Bye!

Ken: Bye!

ア I didn't want to go there.

イ Pardon?

ウ How do you do?

エ I've never been there.

オ Thank you.

カ No, I'm not.

キ Yes, I do.

ク Oh, do you?

ケ How about tomorrow?

コ Yes, let's go!

配点 配点 10 点 (各 2 点)

正答 (1) コ (2) カ (3) ケ (4) エ (5) オ

< 抽出答案における【5】小問別正答率 (%) >

学科 設問 人数	全 体 3,407	普通科 3,115	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
(1)	73.4	75.2	52.0	54.7	70.0	65.7	50.9
(2)	90.2	91.2	85.3	81.3	100.0	77.1	74.1
(3)	92.0	92.7	86.7	90.6	100.0	91.4	75.9
(4)	77.3	78.9	61.3	64.1	80.0	71.4	53.7
(5)	80.2	81.1	68.0	75.0	90.0	80.0	64.8

本問は、基本的な口語表現を文脈に合わせてどの程度使えるかを確かめる問題である。本年度は、Tom と Ken との対話文を用いて、その理解の度合いを調べてみた。

調査校の抽出答案全体の正答率は82.6%であった。口語表現に関する問題の正答率は例年比較的高く、昨年度は77.1%であった。本年度は全体的に更に上がった。特に、小問(2)、(3)の正答率は90%を超えた。

< 分析答案による誤答数 >

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1)	26	3	8	2	2	3	0	5	2	0	正答	1
(2)	5	4	0	0	0	0	正答	1	0	0	0	0
(3)	2	0	0	0	0	0	0	0	1	正答	1	0
(4)	19	7	0	10	正答	0	0	0	1	0	0	1
(5)	14	1	0	0	0	正答	0	2	3	0	7	1

< 考察 >

小問(1)は、Tom から「一緒にコンサートに行きませんか」と誘われて、Ken がそれに応答する場面である。調査校の抽出答案全体の正答率は73.4%で、本問中最も正答率が低く、誤答の分布も多岐にわたった。誤答の中で最も多かったのは イ Pardon? であった。(1)の後の文が疑問文であったため、聞き返す表現を選んでしまったと思われる。

小問(2)は、Tom に「今度の日曜日は時間がありますか」と尋ねられて Ken が応答する場面である。調査校の抽出答案全体の正答率は90.2%であった。会話の前後の流れから、容易に判断できたためであろう。

小問(3)は、「明日はどうですか」と、Tom が尋ねる場面である。調査校の抽出答案全体の正答率は92.0%であり、会話でよく使われる How about ~? という表現はよく定着していると言える。

小問(4)は、「私は行ったことがない」と Ken が言う場面である。調査校の抽出答案全体の正答率は77.3%であった。会話における現在完了形の経験用法については、理解できているようである。

小問(5)は、Ken が Tom に、「ありがとう」と謝意を述べる場面である。すぐ後ろに You're very kind. があるので、すぐに正答 オ Thank you. が導き出される。調査校の抽出答案全体の正答率も80.2%とかなり高かった。一方、誤答の半数が コ Yes, let's go! を選択している。これは Tom の Then, let's meet at your house. からの単純な連想によるものであろう。

<指導上の留意点>

<p>&lt;問題点&gt; 小問(2), (4)の誤答にみられるように, 時制に対する理解が不十分である。</p>
<p>&lt;具体的な指導例&gt; 口語表現を含む会話文を用いて, 生徒同士で対話練習をさせたり, A L T と実践的な会話練習をさせたりするときには, 時制に注意を促すようにする。また, 様々な活動場面を想定してドリルやコミュニケーション活動を仕組み, 疑似コミュニケーション体験をさせる。</p>

(6) 表現に関する問題

<p>問題のねらい: 単語を並び換えて, 正しい英文を構成することができるか。 平易な日本語を英文に直すことができるか。</p>
<p>【6】 次の(1)~(3)の日本語の意味を表すように, 下に与えられた語を全部用いて, 英文を作りなさい。また, (4)は下線部(A)(B)の日本語を英文に直しなさい。</p> <p>(1) 彼女が訪ねてきたので, 私の兄は喜んだ。 [brother / happy / her / made / my / visit]</p> <p>(2) 彼女がどこでそのカメラを買ったのかわかりません。 [bought / camera / don't / I / know / she / the / where]</p> <p>(3) 君がパーティーで会った女の人は, 私のおばさんです。 [at / aunt / is / my / met / the / the / party / you / woman]</p> <p>(4) 「<sup>(A)</sup>私は何か飲み物が欲しい。」 「分かりました。何が一番いいですか。」 「<sup>(B)</sup>私はお茶が一番好きです。」</p>
<p>配点 15点 (各3点 部分点は与えません。)</p> <p>正答 (1) Her visit made my brother happy. (2) I don't know where she bought the camera. (3) The woman you met at the party is my aunt. (4) (A) I want something to drink. (B) I like tea (the) best.</p>

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科 設問 人数	全体 3,407	普通科 3,115	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
(1)	40.9	42.3	26.7	26.6	60.0	25.7	21.3
(2)	78.9	80.4	69.3	60.9	90.0	88.6	50.0
(3)	30.0	31.8	9.3	4.7	70.0	14.3	7.4
(4)A	55.0	57.7	24.0	17.2	60.0	37.1	26.9
(4)B	38.6	40.3	20.0	17.2	60.0	28.6	17.6

本問は, 基本的な英文による表現力を問う問題であり, 小問(1)~(3)を整序問題, 小問(4)を日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校の抽出答案全体の正答率は48.7%であった。

<考察>

小問(1)は, 動詞 make の用法「S + make + 名詞 + 形容詞 : S が (名詞) を (形容詞) にする」の理



<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)(A),(B)のように動詞 want, 最上級などの基礎的事項を正しく用いて表現できない。  
小問(1),(3)のように日本語の語順に惑わされることなく, 適切な英語を使って表現できない。

<具体的な指導例>

(1) 生徒に覚えさせたい必要最小限の例文を用意し, 反復練習により暗唱させる。

始めは, 日本語との発想や文構造の違いを十分理解させる。その後, 口頭による暗唱練習, 聞き取りテストなどを繰り返し実施することにより, 文字で正確に再現できるようにする。

(2) (1)で覚えた例文を使って, 自分のことについて英語で表現させる。

(1) 授業の始めに生徒に書くべきテーマを与え, 4~5文で表現させてみる。

テーマは「私が今欲しいもの」「私が一番好きなもの」など, 生徒にとって身近で書きやすいものにし, 時間は2~3分程度とする。テーマによって, 関係代名詞などの表現を必ず一度は使うよう制限を加えるのもよい。書いた後は, 友人同士で発表したり, 添削しあうなどする。

(2) Eメールの交換, 生徒同士の擬似文通などをさせる。

擬似文通とは, 教員が郵便配達員役となり, 違うクラスの生徒同士の文通を取りもつやり方である。文通相手は特定の生徒とするが, 実名は明かさなないことで, 生徒同士の日本語での接触を防ぐことができ, 英語を使う必要性が保たれる。相手に渡す前に, ALTなどが英文をチェックし, 指導すれば, 英語で表現する力も徐々につくので, 有効な方法である。

(7) 長文読解に関する問題

問題のねらい: 比較的長い英文の読み取りができるか。

【7】 次の英文を読んで, あとの問いに答えなさい。

In a small town in the west of Canada, there was a big library with a lot of interesting books in it. People in the town could take the books home for three weeks and read them. They could borrow four books each time and then they had to take them back to the library.

Every year, the library bought a lot of books and soon the building was too ( 1 ) for all the books. One morning, the head of the library said, "(2)November 28 is a big day for us - we're going to move to a new library building. It's a much bigger and better building but there's (3)one difficult problem. It's going to be very expensive to take all our books to the new building. How can we get the money?"

The people in the library talked about this problem. One evening, five weeks before November 28, a young woman had a good plan. She went to the head of the library and talked about (4)it. Two weeks later he told the people about the plan: "Between now and November 28, everyone can take six books home, not four books as usual, and can borrow them for six weeks, not ( 5 )."

People in the town were very ( 6 ) and they took five or six books home. After two weeks, few books were left in the library. The big day came and they moved to the new building. (7)It was very easy. The head of the library was very happy.

(注) head 「館長」 move 「引っ越す」 as usual 「いつものように」

問1 空所(1)に入る語として最も適当なものを選び, 記号で答えなさい。

ア big                      イ much                      ウ small                      エ tall

問2 下線部(2)の理由として最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア たくさんの本を買う日だから                      イ 本を6冊借りることのできる日だから  
 ウ 新しい図書館に引っ越す日だから                      エ 図書館にお金が入る日だから

問3 下線部(3)の内容として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア The new library building was too big.  
 イ The head of the library was very busy on November 28.  
 ウ The books in the library were very expensive.  
 エ The library didn't have enough money to move to the new building.

問4 下線部(4)の示すものとして最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア the problem                      イ the books                      ウ the new building                      エ the good plan

問5 空所(5)に入る語として最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア three                      イ four                      ウ five                      エ six

問6 下線部(6)に入る語として最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア afraid                      イ careful                      ウ happy                      エ sad

問7 下線部(7)の理由として最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア Because everyone could take four books home on November 28.  
 イ Because many people worked in the library.  
 ウ Because the new building was near the old building.  
 エ Because there were not many books in the old library.

問8 この物語の題として最も適切なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア A library in a small town  
 イ A good plan for moving to a new building  
 ウ A problem of the new library  
 エ A new library with a lot of interesting books

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で書きなさい。

ア Everyone in the town had to borrow six books on November 28.  
 イ People can borrow six books from the new library.  
 ウ The head of the library thought that the young woman's plan was good.  
 エ People didn't come to the library to borrow books in November.  
 オ The head of the library carried all the books to the new library.  
 カ There were many interesting books in the old library.  
 キ People in the town didn't like reading books in the library.

配点 20点 (小問ごと各2点(問9は各2点) 部分点は与えません。)

正答 問1 ウ 問2 ウ 問3 エ 問4 エ 問5 ア  
 問6 ウ 問7 エ 問8 イ 問9 ウ・カ

< 抽出答案における【7】小問別正答率(%) >

学科 設問	全 体 人 数	普 通 科	商 業 科 系	家 政 科 系	英 語 科 系	工 業 科	そ の 他
問1	3,407	3,115	75	64	10	35	108
	25.9	27.2	8.0	10.9	40.0	8.6	13.9

問2	89.1	90.1	85.3	81.3	100.0	82.9	69.4
問3	57.2	58.6	28.0	45.3	100.0	54.3	40.7
問4	69.7	71.4	56.0	48.4	90.0	62.9	42.6
問5	46.7	48.2	25.3	40.6	90.0	42.9	20.4
問6	75.8	76.7	65.3	68.8	90.0	82.9	55.6
問7	47.6	49.5	22.7	29.7	70.0	34.3	23.1
問8	50.8	52.3	33.3	31.3	70.0	45.7	30.6
問9ウ	59.3	61.7	25.3	37.5	90.0	37.1	30.6
問9カ	58.2	59.8	25.3	43.8	80.0	42.9	46.3

本問は、251語の比較的長い英文を読解する力を確かめる問題である。この問題で要求されるのは、一定の時間内に本文の内容を的確に把握する力である。調査校の抽出答案全体の正答率は58.0%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問1	88	28	52	正答	7				1
問2	11	2	8	正答	1				0
問3	48	6	3	38	正答				1
問4	24	17	3	4	正答				0
問5	61	正答	35	16	10				0
問6	27	6	16	正答	5				0
問7	58	30	15	12	正答				1
問8	56	23	正答	26	6				1
問9	93	31	24	正答	7	26	正答	0	5

<考察>

問1は、前後関係から適語を推測する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は25.9%と本問中最も低く、話の流れをつかむことが難しいようである。誤答は イ much が52例と最も多いが、これは文脈から判断せずに、日ごろ使い慣れている too much という表現を頭に浮かべてしまったためと思われる。

問2は、11月28日がどうして a big day なのかを問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は89.1%と非常に高かった。直後の we're going to move to a new library building の内容を適切にとらえていると言える。

問3は、one difficult problem の内容を問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は57.2%であった。誤答は ウ The books in the library were very expensive. が38例と最も多かった。これは直後の It's going to be very expensive to take all the books to the new building. の expensive に惑わされたことが原因であろう。

問4は、代名詞の it が指すものを問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は69.7%であった。指示代名詞の内容を的確にとらえることができていると言える。

問5は、本文に出てくる数字を整理して理解しているか問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は46.7%であった。誤答の半数以上を イ four が占めているが、これは本文2行目の People in the town could take the books home for three weeks .... の three weeks に気付かずに、直前の not four books の four に影響されたためと思われる。

問6は、町の人々が館長の提案にどのように反応したかを問う問題である。調査校の抽出答案全体の

正答率は75.8%と高かった。話の流れがよく理解できているようである。

問7は、物語の結末の内容を問う問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は47.6%であった。誤答中最も多かったのはア Because everyone could take four books home on November 28. であったが、これはこの選択肢のみが本文中にほぼ同じ形で登場しているためだと思われる。

問8は、物語の内容から適切な題を選ぶ問題である。調査校の抽出答案全体の正答率は50.8%であった。誤答では、ア A library in a small town と ウ A problem of the new library がほぼ同数だった。ともに「図書館の若い女の人が出したアイデアによって、うまく引越しができた。」という本文の中心的内容をとらえていないためであろう。

問9は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校の抽出答案全体の正答率はウが59.3%で、カは58.2%であった。最も多かった誤答はア Everyone in the town had to borrow six books on November 28. の31例であった。これは本文中の can take six books と選択肢アの中の had to borrow six books の違いにまで注意を払えなかったためだと思われる。また次に多かった誤答の イ People can borrow six books from the new library. や オ The head of the library carried all the books to the new library. はともに本文中に全く記述のない事柄であるため、本文の内容をきちんと把握できていないことがうかがえる。

<指導上の留意点>

<問題点>

問1のように、文章の前後関係から内容を推測する力が不足している。また、内容への理解があいまいな時には、自分が分かる一部の情報だけで解答する傾向がある。

問9のように、おおまかな内容はつかむことができても、精読のように一つ一つの文章を正確に理解することができていない。

<具体的な指導例>

易しい英文を用意し、一定の時間内に読ませ、内容を問う英問に答えさせる。

(1) 本文の内容を、異なった英語表現に置き換えて発問し、理解を深めさせる。

(2) 生徒自身に、本文とは異なった英語で内容を表現させ、ペアワークなどで説明をしあったり、Qs & Asをさせる。

(8) 聞き取りの問題

問題のねらい：口頭による英語の聞き取りができるか。

【8】 この問題は、先生又は放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Bob : Hi, Yumi. What did you do yesterday?

Yumi : I went to Nagoya to see a movie.

Bob : What did you see?

Yumi : It was an old movie, but I don't remember the title.

Bob : Well, tell me about the story.

Yumi : I don't remember the story, either.

Bob : Did you really enjoy the movie, Yumi?

Yumi : No, I didn't.

Bob : Then why did you see it?  
 Yumi : Because my father wanted to see it.  
 Bob : Oh, did you go with your father?  
 Yumi : Yes, he likes old movies very much.  
 Bob : I see. Do you often go to see movies with your father?  
 Yumi : Yes. I like going out with my father, because he always buys something for me.  
 Bob : What did he buy for you yesterday?  
 Yumi : A video of the same old movie I saw yesterday.

Question 1 What did Yumi do yesterday?

- (a) She saw a movie. (b) She bought a book.  
 (c) She met a friend. (d) She watched a game.

Question 2 Does Yumi remember the title?

- (a) Yes, she does. (b) Yes, she did.  
 (c) No, she doesn't. (d) No, she didn't.

Question 3 Was the movie interesting to Yumi?

- (a) Yes, it was. (b) Yes, she was.  
 (c) No, it wasn't. (d) No, she wasn't.

Question 4 Who likes to see old movies?

- (a) Yumi does. (b) Yumi's father does.  
 (c) Bob does. (d) Yumi and her father do.

Question 5 Why does Yumi go out with her father?

- (a) Because he always takes her picture.  
 (b) Because he always gives her a video.  
 (c) Because he always carries her bag.  
 (d) Because he always buys something for her.

配点 10点 (各2点 ×なしでも正解とする。)

正答 (1) a ( ) b (×) c (×) d (×) (2) a (×) b (×) c ( ) d (×)  
 (3) a (×) b (×) c ( ) d (×) (4) a (×) b ( ) c (×) d (×)  
 (5) a (×) b (×) c (×) d ( )

< 抽出答案における【8】小問別正答率(%) >

学科 設問人数	全体 3,383	普通科 3,091	商業科系 75	家政科系 64	英語科系 10	工業科 35	その他 108
Question 1	94.3	94.6	93.3	93.8	100.0	100.0	83.3
Question 2	72.9	74.2	61.3	56.3	80.0	60.0	55.6
Question 3	37.7	39.2	18.7	28.1	50.0	20.0	18.5
Question 4	79.4	80.7	70.7	64.1	70.0	68.6	62.0
Question 5	53.7	55.5	41.3	21.9	80.0	34.3	34.3

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確かめる問題である。平成15年度に続き、本年度も問題を「会話文 質問 会話文 質問 解答選択肢」の順とした。

今回の内容は、Bob が Yumi に昨日何をしたかを尋ねることから始まる二人の会話である。問題文の語数は123語で、前年度の96語より長くなっている。質問は Yes - No で答える疑問文を2問（Questions 2, 3）と疑問詞を使った疑問文を3問（Questions 1, 4, 5）とした。読みの速さは例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、すべての選択肢に 又は×を付けさせる形式とした。本問の調査校の抽出答案全体の正答率は 67.6%であり、平成15年度の 58.4%より上がった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)
Question 1	0	正答	0	0	0
Question 2	23	9	4	正答	10
Question 3	48	11	7	正答	30
Question 4	9	2	正答	2	5
Question 5	44	2	36	6	正答

<考察>

Question 1 は、「Yumi が昨日何をしたか」を問うものである。調査校の抽出答案全体の正答率は 94.3%で本問中最も高かった。会話中、movies という単語が頻繁に使用されているため、正答率が高いと思われる。

Question 2 は、「Yumi が映画のタイトルを覚えているか」を問うものである。調査校の抽出答案全体の正答率は 72.9%であった。誤答のうちで一番多かったのは (d) No, she didn't. で、Does と Did が正確に聞き取れなかったためと思われる。

Question 3 は、「Yumi にとってその映画が面白かったかどうか」を問うものである。調査校の抽出答案全体の正答率は 37.7%で、本問中最も低かった。誤答のうちで最も多いのは (d) No, she wasn't. であった。面白くなかったことは聞き取れているが、質問文の最後にある to Yumi に影響されて主語を取り違えたと思われる。

Question 4 は、「だれが昔の映画を見るのが好きなのか」を問うものである。調査校の抽出答案全体の正答率は 79.4%で、本問中2番目に高かった。質問文が理解しやすかったためと思われる。

Question 5 は、「なぜ Yumi は父親と一緒に出かけなのか」を問うものである。調査校の抽出答案全体の正答率は 53.7%であった。誤答のうちで最も多いのは (b) Because he always gives a video. であった。これは、会話の最後にある A video of the same old movie I saw yesterday. に惑わされたのが原因であろう。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 3 のように内容的には理解しているが、質問文に応じた答え方ができない。

Question 5 のように、会話の流れを理解した上で、情報を整理して聞き取ることができない。

<具体的な指導例>

疑問文に答える際に、主語や時制に注意して、完結する文の形で答える練習を繰り返させる。

- (1) 教科書の内容や A L T の話などを聞かせ、内容を理解させる活動をオーラルコミュニケーションだけでなく、他の英語の授業でもできるだけ多く取り入れる。
- (2) 聞きとった内容で Q s & A s を行う。聞き取らせた題材に対して生徒に英語の質問を考えさせ、ペアワークを行う。